

温故知新

佐賀市立本庄小学校
校長 貞包 弘章

4月1日の早朝、18年ぶりに本庄小学校の校門をくぐったとき、何かしら学校現場へ久しぶりに復帰するのとは異なった緊張感を覚えました。昨年度創立120周年を終え、121年目の今年度、新たな未来に向かってまた一步踏み出した本校の鼓動を感じたからでしょうか。体育館が建て変わり、古い北校舎がなくなり、東校舎や校門も新しくなり、かつて教師としての資質を磨こうと頑張っていたころの面影は、唯一管理棟がある南校舎のみです。一抹の寂しさはありますが、子どもたちや職員のはつらつとした姿は以前と変わりません。職員は研究校に勤務する使命感に燃え、毎日精力的に教育活動に勤しみ、子どもたちは真剣な態度で学習に臨んでいます。



本庄小学校も他の学校同様少しずつ児童数が減少し、3クラスを維持するのが厳しい状況にきております。子どもの数や職員の数が増減していくことが予想される中で、これまで伝統として受け継いできた教育研究のあり方を検討することも必要となってくると思われます。また、昨年度より、今日的な教育課題である小1プロブレムの問題を解消し、幼稚園と小学校の滑らかな接続を図り、子どもたちがスムーズに小学校生活に適應できるような幼小一貫の教育システムを構築する役割も担っています。

これまで先輩たちが築いてこられた伝統を継承しながらも、これからの時代が求めている教育のあり方を模索しながら、子どもの学びを創り、健やかな育ちに全力を尽くすと同時に、職員もこれまでのように、本校で鍛えられ、大きく飛躍できるよう頑張っていきたいと思っています。

子どもたちが毎日元気に通いたい学校、保護者や地域の方も通わせたい学校づくりを推進していくためには、保護者の方や地域の方の温かいご支援、ご協力に勝るものはないと考えています。本庄町の温かいまなざしにつつまれながら、地域と共に歩む学校づくりをめざしていきたいと考えています。

今後ともご支援とご協力をよろしくお願いします。